

「爪に火をともしてお金を貯めたのに…」 政府の75歳以上の医療費負担の拡大検討に 高齢者からは悲鳴

2024/9/24 テレビ愛知



<https://news.yahoo.co.jp/articles/e2dbea25f3e1eca6237a2dbf0155d66feb5f3a65>

今、日本は超高齢社会に突入しています。総務省が発表した人口推計によりますと、65歳以上の高齢者は年々増え続けています。2024年は、2023年から2万人増えて3625万人と過去最多を更新しました。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年には4000万人に迫ると予想しています。

75歳以上の医療費負担の拡大を検討 政府は高齢者にも求めたい考え



団塊の世代が後期高齢者になり始めた今、政府がある検討を始めました。それは…

岸田総理：

「高齢者を支える取り組みだけでなく、すべての世代の人が支え合い、持続可能な社会を築く取り組みが重要」

75歳以上の医療費負担拡大です。現在の75歳以上の医療費負担は原則1割です。

しかし、200万円以上の所得があれば2割、年収383万円以上など現役並みの所得の場合は3割となり、所得によって負担の割合が違います。

政府は今後、3割負担の対象の範囲を広げることができるかどうか、検討することです。2023年度の医療費が約47兆円と、3年連続で過去最高を更新していて、政府はその負担を高齢者にも求めたい考えです。

75歳以上の医療費の負担拡大 働き世代の意見は

政府が検討する方針の75歳以上の医療費の窓口負担の範囲拡大。賛成か、反対か、働き世代に話を聞きました。

40代男性：「負担を求めるといのは、いいことなのかなと思う。若い方がどんどん減っているということだったら、高齢の方にも負担していただく」

30代男性：「年金ですとか、所得ないし、貯蓄を持っている人であれば出していただく方が、より公平性があるのかなと思う」

40代女性：「収入ある人限定だと思っておりますけど、負担いただくのが相応の考えかなと思います」

一方、反対の立場の人も…

40代男性：「所得が全くない人とか、資産が全くない人から取るのはどうかなとは思いません」

高齢者「爪に火をともししてお金を貯めたのに…」

負担を求められている高齢者にも話を聞くと…

80代男性：

「**血圧下がる薬を2つ、3つもらって、今まで1000円で済んだ。ところが3割になると、3000円になっちゃうじゃん。ちょっと負担大きいね**」

今、後期高齢者は医療保険料の月々の支払も増加しています。厚生労働省によりますと、愛知の場合、2023年度の医療保険料は月額7688円でしたが、2024年度は867円増えて、月額8555円となりました。

80代女性：

「えらいことよ。だってさ、私たち、まあちょっとはあるわけじゃん、資産が。そうすると、それは爪に火をともししてお金を貯めたのに、それが持ってるからってとりあげようって、それはないよと思うけどね」

80歳の女性は、同い年の夫と2人暮らしで、年金だけで生活しているといいます。

80代女性：

「(年金の年間支給額は)50何万かな。そこから介護保険料引かれて、それからなんとか料引かれてって、手取りひと月4万円になるかならないか。爪に火をともしたためたお金を取り崩して食べてるわけよ。だから運動したりなんかして、お医者にはかからないようにしてます」

65歳から69歳の就業率を57%目標へ

政府は、後期高齢者の医療費負担を拡大できるかどうか検討するのに合わせて、高齢者の就労や社会参加できる環境を整備するという事です。



2023年と比べた2029年の数値目標として、65歳から69歳の就業率を52%から57%へ引き上げることも掲げました。具体的には65歳以上の定年延長や、ハローワークのマッチング強化など、多様な就業の機会を提供するという事です。